

「ヴァラナシ国際協力・コンベンションセンター」着工式の開催

本14日、ヴァラナシ市郊外・ラジャタラブで、日本の協力により建設される「ヴァラナシ国際協力・コンベンションセンター」の着工式が開催されました。インド側からは、ナレンドラ・モディ首相以下各機関の高官が、日本側からは、浅利臨時代理大使が出席しました。

「ヴァラナシ国際協力・コンベンションセンター」(VCC)は、日本の無償資金協力(30.6億円)により、インド北部のウッタル・プラデシュ州ヴァラナシ市において建設されます。

着工式では、モディ首相から、「私のもっとも親愛なる安倍総理はヴァラナシに来られ、VCCへの援助をくださった。ヴァラナシ、インドの人々は大変感謝している。VCCはヴァラナシの文化遺産と観光をより発展させる」「安倍さんは、私やインド人と会うといつも、2年前の訪問の際のヴァラナシのホスピタリティへの感謝を述べられる。我々のホスピタリティは日本に歓迎されている」と、日本側への感謝とともに、日印両国の友好関係の重要性が述べられました。

インドの観光分野については、同国が有する高いポテンシャルにも関わらず、アジア太平洋地域の他国に比べてGDP比率が低く、今後の同国の経済成長を牽引する可能性を十分に有する産業分野といえます。ヴァラナシ市は、ガンジス川に面し、約3,000年の歴史を持つ世界最古の都市の一つで、ヒンドゥー教及びジャイナ教の聖地であることから同国の文化及び歴史の中心都市であるにもかかわらず、同市には、その文化・歴史を発信・交流する施設が整備されていない状況です。

「ヴァラナシ国際協力・コンベンションセンター」には年間約5万人の訪問者を見込んでおり、完成後は国内外の人的・文化的交流の促進を図り、観光分野の振興を通じた産業競争力の強化に寄与することが期待されます。